

地域一体となって 全国制覇を支援



▲白神米を受け取る小野校長と山島マネージャー

「バスケの街づくり計画」の一環として、JAと能代市は全国制覇を目指す能代工業高校バスケットボール部に対し、白神米を寄贈しました。

この取り組みは今年から始まったもので、バスケットボール部の寮生および下宿生に向け、1人あたり玄米60kgが手渡されました。白神米を受け取った山島有貴マネージャーは「頂いたお米で力をつけ、全国制覇を目指します。」と力強く語りました。

安定した高品質米の 更なる収穫量増加を誓い合う



▲平成24年度の抱負を語る大塚公隆部会長

平成24年度の事業計画や収支予算などを検討する、JA稲作部会総会が4月13日に開催されました。

はじめに大塚公隆部会長が「天候に左右されない栽培の確立を目指し、部会員一丸となって白神米ブランド力強化に努める。」と挨拶。その後、役員改選などを含む全3議案が原案通り承認されたほか、今年から稼働するカントリーエレベーターの有効活用に向け、多くの意見が交わされました。

白神山地の環境を守り 後世に伝えていく



▲佐々木町長に寄付金を手渡す袴田組合長 ▲環境保全シール

JAは昨年より取り組んでいる「白神山地環境保全基金」から、藤里町へ17万4千円を寄付しました。この基金は、JAから米を購入して販売する卸業者に、環境保全シールも購入してもらい、米袋に貼って自然保護をPRするものです。

藤里町の佐々木町長は「白神山地は来年で世界遺産登録から20年を迎えるので、保全のために大切に使用して頂きます。」と話しました。

地域農業の担い手として 更なる農業振興を目指す



▲青年部組織活動の重要性を語る藤田清樹部長

JA青年部の第14回通常総会が4月13日に開催され、平成23年度事業報告や平成24年度事業計画など、全3議案について協議し原案通り承認されました。

総会では昨年度の事業を踏まえ、担い手として地域農業の振興を目指し、青年部組織活動の活性化を図ることなども協議しました。また昨年実施した多収穫競争会の表彰も行われ、柿崎祐一さんと熊谷剛さんが最優秀賞を受賞しました。